

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol abuse and dependence among U.S.-Mexico border and non-border Mexican Americans. 米メキシコ国境と非国境在住メキシコ系米人のアルコール乱用・依存症		
<b>執筆者</b>		
Caetano R, Vaeth PA, Mills BA, Rodriguez LA.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 May;37(5):847-53. doi: 10.1111/acer.12061		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
メキシコ系米人、米メキシコ国境、飲酒量、アルコール乱用、アルコール依存症		23278433
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 本研究は米メキシコ国境および国境から遠距離の大都市圏に住むメキシコ系米人の現在（過去 12 ヶ月間）の DSM-IV アルコール乱用・依存症の有病率、症状と有病を予測する飲酒様式および社会人口学的因子を検証することにある。</p> <p><b>方法：</b> 非国境地帯（主としてヒューストンとロサンジェルス）の調査参加者は 2006 年にヒスパニック系米人における飲酒の追跡開始時調査(HABLAS)の一部から多段抽出法にて 1,288 人が選ばれ調査された。国境地帯の調査参加者は世帯単位で抽出された国境地帯在住の 1,307 人のメキシコ系米人である。両調査とも調査参加者の自宅においてコンピュータ補助で調査を行いデータが収集された。非国境地帯および国境地帯の参加率はそれぞれ 76 と 67%であった。</p> <p><b>結果：</b> 2 変量解析では国境地帯と非国境地帯間に全体として差はなかったが、男性のアルコール乱用と男女のアルコール依存症において年齢と負の相関が国境地帯でより顕著であった。18～29 歳の女性では、国境地帯在住がアルコール依存症と有意に正に関連していた。多変量解析によると男性のアルコール乱用有病率が非国境地帯に比べて国境地帯においてより顕著に年齢と負の関連があった。また宗教ではカトリック教徒やプロテスタント教徒に比べてユダヤ教徒あるいは他宗教の信者であることは男性のアルコール乱用と負の関連があり、週間飲酒量と男性のアルコール乱用とは正の関連があった。女性のアルコール依存症は結婚し同居していることと負の関連が、職がないことと正の関連が、教育水準とは正の関連が、無宗教であることおよび週間飲酒量とは正の関連があった。男性のアルコール依存症は年齢と負の、週間飲酒量とは正の関連があった。</p> <p><b>結論：</b> 国境地域および非国境地帯在住のメキシコ系米人におけるアルコール関連疾患有病率は同地域でこれまでに観察された飲酒様式を反映したものであった。特にメキシコ系米人の若い女性において国境在住はアルコール依存症に陥りやすいことが示された。</p>		